

# 新しい時代に必要となる資質・能力を育む算数・数学教育

—キャリア教育の視点から主体的・対話的で深い学びの実現を目指して—

## 〈研究の重点〉

- ①キャリア教育の視点から「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の育成
- ②何を知っているか、何ができるかという「知識・技能」の習得
- ③知っていること・できることをどう使うかという「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ④どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかという「学びに向かう力・人間性等」の涵養
- ⑤「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現

## 〈テーマ設定の理由〉

文部科学省(2015)は教育課程企画特別部会における論点整理において、「学習指導要領改訂の視点」を『新しい時代に必要となる資質・能力の育成』、『育成すべき資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し』、『アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善』からなる『育成すべき資質・能力を育む観点からの学習評価の充実』と示した。小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント(文部科学省、2017)において、今回の改訂の基本的な考え方を『教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を活かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成』、『知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成』などであること示した。新学習指導要領が示す「新しい時代に必要となる資質・能力」を算数・数学教育において育成していく必要がある。

「アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善」は、中学校学習指導要領の総則(文部科学省、2017)において、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」となり、「どのように学ぶか」が学習指導要領において示され、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を示唆している。第3次浜松市教育総合計画(2015)において、キャリア教育充実のための施策が示されている。生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な力を育てることを通して、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくため、キャリア教育の視点から授業を実践していくことが必要である。